

# 視察・政務調査報告

歩む会 勝又貞夫

◇ 11月13日 秋田県 秋田市 国際教養大学にて

(午後1:30～3:00)

## ●調査内容

= 地域における大学の果たす役割等について

佐藤事務局次長による資料の説明の後、質疑応答を行なった。

この国際教養大学は、公立大学法人として2004年に開学した。市街地から程よく離れた森の中にあり、都会のような利便性はないが、県立中央公園に隣接しているなど、教育環境は素晴らしい。世界中から集まった優秀な教授陣により、すべての授業を英語で提供し、徹底した少人数教育を行なっている。世界49か国の193の大学との提携関係により、約180～200人のトップクラスの留学生が学び、キャンパスは『世界の縮図』ともいえる多文化共生空間を形成して

いる。

説明を聞いて最初に驚いたのは、この大学の国際性とレベルの高さであった。日本国内の大学において、教育充実度第1位、国際性第1位、大学の総合ランキングでも第12位で、教育の質やレベルの高さが際立っている。

卒業生のうち、秋田県内に就職する人は以外に少ない。平成29年度の県内就職者は9人とのことで、大半は国際性の高い一流企業へ就職する。

我が南魚沼市にも世界レベルの国際大学があり、世界80か国から優秀な学生が集まっているが、この大学が地域に果たす役割は何であろうか。この大学の性質上、必ずしもこの地域に溶け込んでいるとは言えないのではないか。

我々が秋田の国際教養大学から学ぶべきは、地域との連携や貢献活動についてであろう。県内自治体との協定等に基づき国際交流や、地域の伝統行事やイベントなどへの積極参加を通して、地域の様々な年代の人達との交流など、大きな成果が得られているように感じられた。この地域連携による交流については大いに学ぶべきである。

※詳しくは参考資料をご覧ください。

◇11月14日 秋田県 大館市 市役所本庁舎にて

(午前10:00～11:30)

●調査内容

= 小・中学校の学力向上について

山本教育監による資料の説明の後、質疑応答を行ない、秋田教育についての理解を深めることができた。

・・・資料添付

大館市の人口は73001人(31443世帯)で、小・中学生は約4600人。小学校17校、中学校9校(県立1校含む)、県立特別支援学校1校とのこと。小中学校の児童生徒の学力は、ここ十数年間は全国トップのレベルにある。秋田では、保護者達が教育に熱心で、家庭の教育環境を重視する傾向がある。学校・家庭・地域の全体が連携して教育に取り組んでいるというムードが決定的に違うように感じられた。ここでは、教育は学校にのみまかせるものという観念がなく、【地域全体で一つの学校】を目指しているかのようである。

この大館市の教育が全国的に注目され、過去5年間で見ると、31都道府県から、教師、PTA、議員、教育行政機関、国や大学の研究機関等の視察が続いている。

昭和30年代の頃は、秋田県の教育といえば、全国の最下位レベルにあった。これでは、『胸をはって故郷を語れない』との思いから、教育関係者達が立ち上がり、学力向上の誓いを立てた。それから絶えることなく、教育関係者達の努力が続き、その結果、40年の努力を経て、平成17年には、秋田の小中学生の学力は全国1位になった。その後も、福井県・石川県と並んで【万年トップ】とさえ言われている。秋田の教育関係者は学力テストで、天と地を経験した。驚くべきは、秋田の教育関係者が、最後までトップを目指したということであろう。全国平均を越えても、手を緩めることなく、更に向上の努力を続けた結果が今日の秋田教育である。教育現場における、これまでの経過の説明を聞いて、教育に対する【強い執念】が感じられた。

安定的な学力は秋田県の財産であり、挑戦はまだまだ続くとの話を聞いて感動し、南魚沼市の教育関係者にも聞かせて

やりたいものだと思った。当市の教育関係者もまた、この秋田教育に学ぶべきである。教師のお試し交換授業もやっている。少なからず教師の県外への派遣もやっているとのこと。当市もこのやり方を活用して学ぶべきであると提案したいと思う。

※詳しくは参考資料をご覧ください。

## 歩む会行政視察

平成 30 年 11 月 15 日 阿部 久夫

### 青森市コンパクトシティ総合計画

目的 都市の核である中心市街地地区をはじめ、日常生活の拠点である各地域が地域特性に応じた機能分担をする共に、バランスのとれたコンパクトなまちづくりを進める。

又、それぞれの拠点を交通ネットワークでつなぎ連携強化を推進する。

### 青森市の概要

- ・平成 17 年 4 月 1 日新青森市でスタート
- ・平成 18 年 10 月 1 日中核市へ移行
- ・人口 285,185 人（平成 30 年 4 月 1 日現在）
- ・地勢 面積約 825 km<sup>2</sup>
- ・産業 商業・流通業等 3 次産業（就業者の 8 割）に特化した都市

### 青森市の宝物

- ・日本一おいしい水道水
- ・カシス（黒房スグリ）の生産量は日本一
- ・りんごの生産量は全国トップクラス
- ・国特別史跡や青森ねぶた祭等多くの資源に恵まれている。

### 所見

青森市の概要を見ても当市と比較にならない部分があるが、一番の問題は少子高齢化による人口減少である。推計によると平成 52 年には約 21 万と言われている。大きな問題点として、中心市街地の空洞化や「特別豪雪地帯」の指定を受け、人口 30 万人規模としては、世界有数の多雪都市であり、除雪延長は、車道約 1,363 km、歩道 20 km であり、除排雪経費として 25,3 億円である。消雪パイプは地番沈下や凍結の為条例で認めていない。

そこで、コンパクトシティを形成する都市構造として、おのおのの拠点の役割分担のもとで、3ヶ所に区分し、都市整備を推進している。

「インナー」都市機能の集約 「ミッド」良好な宅地供給を計画的に実施

「アウター」市街化を抑制し、自然景観等の維持・営農環境の保全に分けて都市計画税を取らず、住宅や社会資本整備など都市づくりにかける力の集中化を図るとともに、公共交通ネットワーク整備を行い 10 分程度歩くと駅やバス停が利用出来、値段も 100 円、200 円と利用しやすい制度である。

まとめとして、青森都市計画マスタープランであるが、「面積が広く山間地が多い」・「世界有数の豪雪地帯」・「8割が 3 次産業」・「若者の流出」と居住機能などの集約化を目指すには大変厳しい状況だと感じた。市内での雇用環境を充実させ若い人が安心して働き出来る環境づくりが優先だと感じました。